

1. 理念と運営

「知の市場(FMW: Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場とし、理念と基本方針を共有して協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、知の市場事務局などのそれぞれの活動によって構築する。

「知の市場」は、自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が立場を越えて自律的な判断により自立的に自ら活動する場(Voluntary Open Network Multiversity)である。2004年度から2008年度までの5年間大きな成果を上げてきた「化学・生物総合管理の再教育講座」の実績を発展的に継承しつつ、政府や大学からの資金提供などを求めず自発かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた2009年度以降、さらに視野を拡大して全国に新たに展開している。

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員野球の中で各々の役割を果たして教育を支えていく、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めている。津々浦々で諸々のことを担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた運営の方針の下、知の市場の理念・基本方針や運営体制などを公開し、諸規定やツール集・マニュアル、受講修了証などの諸様式、「知の市場」のロゴマークなどの統一と標準化そして参画機関のホームページの相互リンクなどにより協働の基盤を整備し、相互扶助と相互検証を通して連携の強化と教育水準の維持向上を図っている。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という4つの教育の基本方針の下で活動する。そして、連携機関の協力を得て開講機関が主催して開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する活動である関連講座で構成している。

2. 2009年度の実績と2010年度の計画

共催講座は化学物質総合経営、生物総合経営、コミュニケーション、総合(医療・保健、労働、食・農、鉱工業製品・医薬品、環境)、社会技術革新の5つの大分類で構成し、2009年度は東京以外の3拠点を含む11拠点で59科目(1科目は2時間授業15回分で2単位相当)を開講した。関連講座は教養編、専門編、研修編、大学・大学院編からなり、2009年度は東京以外の5拠点を含む12拠点で60科目相当を開講した。全体で合計して全国23機関で119科目相当を開講した。2010年度は、共催講座として東京以外の5拠点を含む16拠点で37科目を開講し、関連講座として東京以外の6拠点を含む16拠点で68科目相当を開講し、合計32拠点で105科目相当を開講する。講師陣として2009年度は、産業界・業界団体、行政機関、専門機関・研究機関、医療機関、大学・学協会などから様々な実務経験を豊富に有する専門家599人が参画した。過去5年間と比較して専門機関や大学・学協会に所属する講師が増加した。

応募動機を精査し適切と判断した応募者については、申込み受付順の早い者を優先として教室の収容人員の範囲内で受講を受理した。応募者は4,374名、受講者は4,168名に達し、過去5年間の平均に対して3.5倍と大きく拡大した。1科目当たりの応募者は43名、受講者は41名で、これも過去5年間の平均の1.5倍に達している。修了者は2,504名で、過去5年間の平均の3.8倍になっている。

表 2009 年度の応募者

	科目数	応募者		受講者		修了者	
		計	科目あたり	計	科目あたり	計	科目あたり
共催講座	59	2297	39	2141	36	1253	21
関連講座	42(60 科目相当)	2077	49	2027	48	1251	30
総計	101(119 科目相当)	4374	43	4168	41	2504	25

3. 再教育講座(2004～2008 年度)と 2009 年度の実績の比較

応募者の内訳を解析した結果は次のとおりであった。

- 1) 年齢構成は 20 代が 39%と急増し、20～50 歳代の現役世代が過去 5 年間と比較して増加し、これまで最高の 92%に達した。これは学生・院生の多い関連講座が増加したことが主因であり、加えて 20～40 歳代が 80%に上る医療・保健学びなおし講座の応募者が増加したがこと副因である。これらを除くと約 3/4 が現役世代で、多少現役世代が減少している傾向がみられるが過去 5 年間の傾向と類似している。
- 2) 共催講座の男女比は男性が 1/3 強、女性が 2/3 弱で、過去 5 年間と比較すると完全に傾向が逆転した。これは約 86%の受講者が女性である医療・保健学びなおし講座の影響が大きく、それを除くと男性が 2/3、女性が 1/3 であり、男性の比率が多少増加しているとはいえ過去 5 年間の傾向と類似している。
- 3) 応募者の居住地域については、中京圏が 30%、中国圏が 6%、九州・沖縄圏が 0.6%、近畿圏が 0.4%と関東圏以外が激増し約 1/3 を超えた。これは知の市場が全国展開し東京以外での開講拠点が増えたことに伴う激変である。東京都内で開講する科目の応募者の居住区域は、東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県 の 1 都 3 県の首都圏で全体の約 94%を占め、過去 5 年間の傾向と類似している。
- 4) 職業別に見ると学生・院生が 38%、医療・保健が 33%と急増した。その主たる要因は、学生・院生の多い関連講座が増加したことと、加えて医療・保健学びなおし講座の応募者が増加したことである。これらを除くと全体の傾向に変化は少ない。名市大 学びなおし講座を除く共催講座では、製造業全体で 38%を占め三次産業も 22%に達し、その合計は若干増加傾向である。土木・建設も 3%で多少増加した。また、大学の教授を含む教員や研究機関の研究者が 9%にのぼり、中央政府や地方自治体の公務員が 6%とこれに続き社会の広範な分野の者が参加している。
- 5) 新規の応募者と過去に受講したことのある応募者とほぼ半分半分という基調は変わっていない。継続受講者が多い一方で、新規の開講機関が増えたことなどが新規の受講者の増加につながり、知の市場が新たな広がりを増していることを示している。
- 6) 講座を知った情報源については、メールが 27%に増加して、47%のホームページと合計すると 74%と過半を超え、電子媒体により情報が主流を占める傾向は継続している。

4. 2009 年度の評価

共催講座では 15 回の授業の終了時点で受講者と講師の双方に対して科目に関する評価を実施する。2009 年度前期の結果の要点は次の通りであったが、過去 5 年間の傾向から大きな変化はなく、高い評価であった。

- 1) 受講者は、講義および科目に対して高い満足度を示し、講義に対する理解度も高かった。100%近い受講者が次回も受講したい、或いは、他人にも講座を紹介したいと答えており、社会から高い評価を受けてた。
- 2) 講師は受講者の受講態度の良さや受講意欲の高さを評価している。また、受講者との意見交換が充分にできるなど講師自身にとっても良い経験の機会であり自己研鑽の糧とになっていると高く評価している。

5. 今後の課題

「知の市場」は今後も恒常的な教育内容の向上に努める。また、開講分野を拡大し連携機関の拡充を図って、現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会を提供する。また、開講機関の拡充を図って全国展開をさらに進め、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していく。

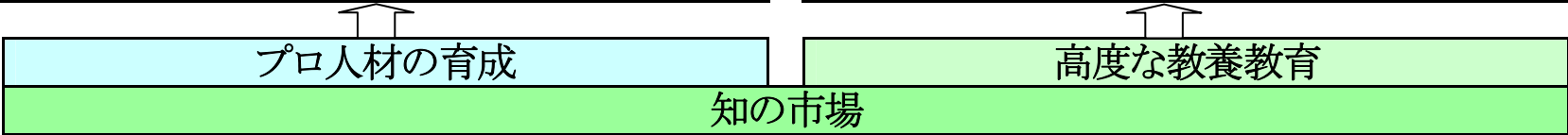
知の市場

「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として
 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して
 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場

	友の会	連携学会	協力者・協力機関	協議会	知の市場事務局	評価委員会	
共 催 講 座	早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前) 前期4科目、後期3科目、計7科目開講				
	日本リスクマネージャネットワーク 早稲田大学 規範科学総合研究所		大阪府環境農林水産総合研究所(JR森ノ宮駅) 前期1科目、後期2科目、計3科目開講				
	ナノテクノロジービジネス推進協議会 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
	主婦連合会 製品評価技術基盤機構 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前) 後期1科目、計1科目開講				
	食品薬品安全センター 主婦連合会 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前) 後期1科目、計1科目開講				
	農業生物資源研究所 早稲田大学 規範科学総合研究所		主婦会館プラザエフ(JR中央線四ツ谷駅前) 後期1科目、計1科目開講				
	労働科学研究所 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前) 前期1科目、後期3科目、計4科目開講				
	労働科学研究所		労働科学研究所(川崎市、小田急向ヶ丘遊園駅から徒歩) 後期1科目、計1科目開講				
	東京工業大学 社会人教育院		東京工業大学田町キャンパス(JR山手線 田町駅前) 前期3科目、後期1科目、計4科目開講				
	お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室)		お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅) 前期2科目、後期2科目、計4科目開講				
	物質・材料研究機構		物質・材料研究機構東京会議室(東京メトロ虎ノ門駅、神谷町駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
	化学工学会SCE・Net		お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅) 後期2科目、計2科目開講				
	鳥取県動物臨床医学研究所		鳥取県動物臨床医学研究所(JR倉吉駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
	製品評価技術基盤機構 NPO法人関西消費者連合会		関西：八尾市立くらし学習館(婦人会館、近鉄 八尾駅) 後期1科目、計1科目開講				
	東北大学未来科学技術共同研究センター		東北大学未来科学技術共同センター(JR仙台駅から徒歩) 前期1科目、計1科目開講				
	放射線安全フォーラム		千代田御茶ノ水ビル(メトロ御茶ノ水駅) 後期1科目、計1科目開講				
	(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)		産業医科大学(北九州市 JR折尾駅から徒歩) (6科目：関連講座として開講。所定の1科目相当の修了者を共催講座修了者として認定)				
	I. 教養編	名古屋市立大学 健康科学講座オープンカレッジ		名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅前) 3学期制、計3ユニット開催			
		名古屋市立大学 学びなおし支援センター		名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅前) 1学期、2学期：各期5科目、計10科目開講			
	II. 専門編	産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科		産業医科大学(北九州市 JR折尾駅から徒歩) 前後期(集中講義)：9ユニット開講			
明治大学 大学院理工学研究科新領域創造専攻 安全学研究所 リバティアカデミー		明治大学駿河台校舎リバティアタワー(JR御茶ノ水駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講					
福山大学 社会連携研究推進センター		福山大学 宮地茂記念館(JR福山駅前) 通年：2科目開講					
III. 研修編	国際協力機構兵庫国際センター(JICA集団研修コース)： 環境安全のための化学物質のリスク管理と残留分析		JICA兵庫他、各地 1コース(19科目相当)開講				
IV. 大学・ 大学院編	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部		6ユニット開講				
	早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究科		1ユニット開講				
	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻		3科目開講				
	早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医学専攻		2科目開講				
	明治大学大学院 理工学研究科 新領域創造専攻		4科目開講				
	お茶の水女子大学		1ユニット、1科目開講				
	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科		1科目開講				
	東京工業大学 工学部 高分子工学科		1科目開講				
	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻		1科目開講				
	福山大学大学院 工学研究科生命工学専攻		2科目開講				

知の市場の構造 — 講座の位置 —

社会人教育	労働科学研究所(1科目+3科目*) 鳥取県動物臨床医学研究所(2科目) 東北大学 未来科学技術共同研究センター(1科目) 名古屋市立大学 学びなおし支援センター(10科目) 産業医科大学産業保健学部環境マネジメント学科(9ユニット) 明治大学 リバティアカデミー(2科目) 福山大学 社会連携研究推進センター(2科目) 国際協力機構兵庫国際センター(JICA 集団研修コース)(1コース)	社会人教育
	学校教育法に基づく履修証明書など発行	
大学大学院教育	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻(3科目) 早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻(2科目) 明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻(4科目) 福山大学大学院工学研究科生命工学専攻(2科目)	大学大学院教育
	学校教育法に基づく単位を取得	
	早稲田大学 規範科学総合研究所(7科目) 日本リスクマネージャネットワーク(3科目*) ナノテクノロジービジネス推進協議会(2科目*) 主婦連合会・製品評価技術基盤機構(1科目*) 食品薬品安全センター・主婦連合会(1科目*) 農業生物資源研究所(1科目*) 労働科学研究所(1科目*) 東京工業大学 社会人教育院(4科目) お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター(増田研)(4科目) 物質・材料研究機構(2科目) 化学工学会 SCE・Net(2科目) 製品評価技術基盤機構・NPO 法人関西消費者連合会(1科目) 放射線安全フォーラム(1科目) 名古屋市立大学 健康科学講座オープンカレッジ(3科目)	
	受講修了証発行	
	早稲田大学理工学術院先進理工学部(6ユニット) 早稲田大学理工学術院大学院先進理工学研究科(1ユニット) お茶の水女子大学(1ユニット、1科目) お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科(1科目) 東京工業大学 工学部高分子工学科(1科目) 東京工業大学大学院 理工学研究科化学工学専攻(1科目)	
	学校教育法に基づく単位を取得	



* 早稲田大学規範科学総合研究所との共催科目

2010 年度前期

公開講座「知の市場」の2010年度前期機関別開講科目一覧

開講科目No.	科目名		副題	曜日	時間
開講機関1 早稲田大学規範科学総合研究所 会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)					
WT211a	感染症総合管理1a	改訂	感染症との闘い ー現在問題となっている感染症ー	火	18:30~20:30
WT301	リスクコミュニケーション特論	継続	マスメディアとコミュニケーション	火	19:00~21:00
WT131a	農業総合管理	旧TT131a	農業のベネフィットとリスクの総合管理の実際	木	18:30~20:30
WT111	化学物質総合評価1	継続	リスク評価の基本的考え方ー発がん物質を例としてー	土	11:00~17:50 (3講義)
開講機関2 ナノテクノロジービジネス推進協議会 早稲田大学規範科学総合研究所 会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)					
IT525	ナノと社会事例研究	新規科目	ナノテクノロジーの現状と近未来	水	18:30~20:30
開講機関3 日本リスクマネジャネットワーク 早稲田大学規範科学総合研究所 会場:大阪府環境農林水産総合研究所(JR森ノ宮駅)					
JK111	化学物質総合評価1	継続(WT111)	リスク評価の基本的考え方ー発がん物質を例としてー	火	18:30~20:30
開講機関7 労働科学研究所 早稲田大学規範科学総合研究所 会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)					
RT421	労働科学	旧WT421a 旧TT421b を統合	産業保健の基礎:労働科学の歴史と展開	土	11:00~17:50 (3講義)
開講機関9 東京工業大学社会人教育院 会場:東工大・田町キャンパス(JR田町駅前)					
TT121	化学物質総合管理1	継続	化学物質総合管理の基礎と応用	火	18:30~20:30
TT424a	産業安全衛生1a	継続	労働現場におけるリスク評価と管理	土	13:00~17:10 (2講義)
TT124	脳と化学物質事例研究	継続	分子がささえる脳の働きと機能脆弱性	土	14:00~18:10 (2講義)
開講機関11 お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室) 会場:お茶大(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
CT302a	科学と社会事例研究1	新規科目	サイエンス・ワールド・トーク1	水	18:30~20:30
CT531	国際石油論	新規科目	日本とサウジアラビアの戦略的互恵関係の意義と発展のための条件を考える	水	
開講機関12 物質・材料研究機構 会場:物材機構・東京会議室(地下鉄虎ノ門駅)					
BT521c	物質材料特論1c	新規科目	物質・材料基盤技術とナノ材料の科学と展開3	金	17:00~19:00
開講機関14 鳥取県動物臨床医学研究所 会場:鳥取県動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)					
ZY222a	動物臨床医学事例研究a	新規科目	臨床現場に有用な症例検討のあり方1	日	9:30~16:50 (4講義)
開講機関15 製品評価技術基盤機構 NPO法人関西消費者連合会 会場:八尾市立くらし学習館(近鉄八尾駅)					
SK441	製品総合管理特論	継続	製品安全対策の基礎知識	木	18:00~20:00
開講機関16 東北大学未来科学技術共同研究センター 会場:東北大学未来科学技術共同研究センター(青葉山キャンパス内、JR仙台駅バス)					
KM524	超臨界技術論	新規科目	超臨界法によるナノ材料の創製とそのリスク管理	8月2日~8月5日(月~木) 9:00~18:00(4講義)	
(注)「知の市場」ホームページ http://www.chinoichiba.org/ には、2010年度の開講科目シラバス(講義内容)を掲載するとともに、すべての開講機関ホームページにリンクが張られています。					
◆知の市場事務局 TEL:03-5978-5018 E-mail:chi-jim2@chinoichiba.org お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室)内					

2010年度後期

公開講座「知の市場」の2010年度後期機関別開講科目一覧

開講科目No.	科目名		副題	曜日	時間
開講機関1	早稲田大学規範科学総合研究所			会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)	
WT211b	感染症総合管理1b	継続	感染症対策—ワクチンを中心に—	火	18:30~20:30
WT221	動物総合管理1	継続	動物と人の関係学—動物から人へのメッセージ	木	
WT453	環境政策	旧TT453	良好な地球環境を次代に引き継ぐための日本の政策と国際動向	土	9:30~13:40 (2講義)
開講機関2	ナノテクノロジービジネス推進協議会 早稲田大学規範科学総合研究所			会場:早稲田大学西早稲田キャンパス地下鉄西早稲田駅前	
IT123	ナノ・アスベスト事例研究	旧CT123改訂	アスベストとナノ材料のリスク管理の比較研究	水	18:30~20:30
開講機関3	日本リスクマネジメントネットワーク 早稲田大学規範科学総合研究所			会場:大阪府環境農林水産総合研究所(JR森ノ宮駅)	
JK131b	防疫薬総合管理	旧TT131b	世界を先導する害虫制御と防疫薬	月	18:30~20:30
JK454	環境基礎論	新規科目	市民の環境問題入門	火	18:30~20:30
開講機関4	主婦連合会 製品評価技術基盤機構 早稲田大学規範科学総合研究所			会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)	
ST441	製品総合管理特論	継続	製品安全対策の基礎知識	火	18:30~20:30
開講機関5	食品薬品安全センター 主婦連合会 早稲田大学規範科学総合研究所			会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)	
DT431	食の総合管理特論1	改訂	食品の安全確保のための技術とその管理	水	18:30~20:30
開講機関6	農業生物資源研究所 早稲田大学規範科学総合研究所			会場:主婦会館(JR四谷駅前)	
AT231	農業生物資源特論	改訂	分子生物学に支えられた農業生物資源の利用と将来	木	18:30~20:30
開講機関7	労働科学研究所 早稲田大学規範科学総合研究所			会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)	
RT422a	労働科学特論a	新規科目	産業安全保健エキスパート養成コース(安全)	木金土 集中	9:30~18:30 (4講義)
RT422b	労働科学特論b	新規科目	産業安全保健エキスパート養成コース(健康)		
RT422c	労働科学特論c	新規科目	産業安全保健エキスパート養成コース(職場環境)		
開講機関8	労働科学研究所			会場:労働科学研究所(小田急向ヶ丘遊園駅/バス)	
RS422d	労働科学特論実習1	新規科目	産業安全保健エキスパート養成最終コース(現場実習)	金土 集中	11:00~17:50 (3講義)
開講機関9	東京工業大学社会人教育院			会場:東工大・田町キャンパス(JR田町駅前)	
TT432	食の総合管理特論2	旧WT432改訂	食の安全・安心を確保するため知っておきたい食品衛生	火	18:30~20:30
開講機関10	産業医科大学産業保健学部 環境マネジメント学科			会場:産業医科大学産業保健学6号館(JR折尾駅/バス)	
MF423-1	産業安全衛生特論1	継続	職場の物理・化学因子の測定と評価	月~水 集中	日程はシラバス参照
MF423-2	産業安全衛生特論2	継続	人間工学とリスクアセスメント		
MF423-3	産業安全衛生特論3	継続	化学物質管理学		
MF423-4	産業安全衛生特論4	継続	環境と生体影響		
MF423-5	産業安全衛生特論5	継続	作業環境管理学		
MF423-6	産業安全衛生特論6	継続	安全衛生管理学		
開講機関11	お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室)			会場:お茶大(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)	
CT302b	科学と社会事例研究2	旧CT302改訂	サイエンス・ワールド・トーク2	水	18:30~20:30
CT471	金融特論1	新規科目	投資を学ぶ:金融資本市場の理論と実態		
開講機関12	物質・材料研究機構			会場:物材機構・東京会議室(地下鉄虎ノ門駅)	
BT521d	物質材料特論1d	新規科目	物質・材料基盤技術とナノ材料の科学と展開4	金	17:00~19:00
開講機関13	化学工学会SCE・Net			会場:お茶大(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)	
VT523a	化学技術特論a	継続	環境に貢献する化学技術	土	13:00~17:10
VT523b	化学技術特論b	継続	社会を支える素材と化学工業		
開講機関14	鳥取県動物臨床医学研究所			会場:鳥取県動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)	
ZY222b	動物臨床医学事例研究b	新規科目	臨床現場に有用な症例検討のあり方2	日	9:30~15:10 (3講義)
開講機関17	放射線安全フォーラム			会場:千代田御茶の水ビル(JR・地下鉄御茶ノ水駅)	
HT461	放射線管理学	新規科目	放射線との適確な付き合い方	木	18:30~20:30
(注)「知の市場」ホームページ http://www.chinoichiba.org/ には、2010年度の開講科目シラバス(講義内容)を掲載するとともに、すべての開講機関ホームページにリンクが張られています。					
◆知の市場事務局 TEL:03-5978-5018 E-mail:chi-jim2@chinoichiba.org お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室)内					

知の市場 2009 年度開講状況

全体					備考	
	合計	科目数	応募者	受講者		修了者
		101	4374	4168		2504
科目あたり	合計	科目数	応募者	受講者	修了者	
		101	43	41	25	

共催講座・関連講座別内訳

合計					備考	
	共催講座	科目数	応募者	受講者		修了者
		59	2297	2141		1253
科目あたり	共催講座	科目数	応募者	受講者	修了者	
		59	39	36	21	
	関連講座	42	49	48	30	

開講機関別内訳

合計	共催講座 開講機関					備考			
		科目数	応募者	受講者	修了者				
		7	234	227	134				
合計	共催講座 開講機関	主婦連合会／製品評価技術基盤機構	1	52	51	41			
		食品薬品安全センター	1	50	47	26	教室規模による定員		
		農業生物資源研究所	1	52	52	28			
		労働科学研究所	8	212	196	196	定員限定、実習あり		
		東京工業大学 社会人教育院	14	248	236	178	有料(1科目15,000円)		
		お茶の水女子大学LWWC(増田研究室)	4	166	164	91			
		物質・材料研究機構	2	95	81	50	教室規模による定員		
		化学工学会SCE・Net	2	64	58	36	教室規模による定員 実費(1科目5,000円)		
		製品評価技術基盤機構／関西消費者連合会	1	19	19	12			
		産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科	3	0	0	0	注3		
		名古屋市立大学 学びなおし支援センター	18	1103	1008	459	実習も含む専門科目		
		福山大学社会連携研究推進センター	6	2	2	2	注2		
		共催講座合計	59	2297	2141	1253			
		関連講座 開講機関	教養編	名古屋市立大学 健康科学講座オープンカレッジ	3	222	205	175	
				産業技術総合研究所	1	44	44	17	
	産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科			6	26	26	22	注3	
	専門編		明治大学リハビリアカデミー	4	326	326	199		
			福山大学社会連携研究推進センター	6	213	213	12	注2	
			新エネルギー・産業技術総合開発機構	2	178	145	72		
	研修編		国際協力機構兵庫国際センター	1	8	8	8	6ヶ月コース、 海外技術研修員対象	
			大学・大学院編	早稲田大学	8	709	709	465	
				明治大学	4	41	41	35	
	お茶の水女子大学			3	210	210	177	注4	
	東京工業大学			2	57	57	51		
	福山大学			2	43	43	18	注5	
	関連講座合計		42	2077	2027	1251			
	科目あたり		共催講座 開講機関	早稲田大学 規範科学総合研究所	7	33	32	19	
				主婦連合会／製品評価技術基盤機構	1	52	51	41	
		食品薬品安全センター		1	50	47	26		
		農業生物資源研究所		1	52	52	28		
労働科学研究所		8		27	25	25			
東京工業大学 社会人教育院		14		18	17	13			
お茶の水女子大学LWWC(増田研究室)		4		42	41	23			
物質・材料研究機構		2		48	41	25			
化学工学会SCE・Net		2		32	29	18			
製品評価技術基盤機構／関西消費者連合会		1		19	19	12			
産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科		3		0	0	0	注3		
名古屋市立大学 学びなおし支援センター		18		61	56	26			
福山大学社会連携研究推進センター		6		0	0	0	注2		
共催講座全体		59		39	36	21			
関連講座 開講機関		教養編		名古屋市立大学 健康科学講座オープンカレッジ	3	74	68	58	
			産業技術総合研究所	1	44	44	17		
			産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科	6	4	4	4	注3	
		専門編	明治大学リハビリアカデミー	4	82	82	50		
			福山大学社会連携研究推進センター	6	36	36	2	注2	
			新エネルギー・産業技術総合開発機構	2	89	73	36		
		研修編	国際協力機構兵庫国際センター	1	8	8	8		
			大学・大学院編	早稲田大学	8	89	89	58	
				明治大学	4	10	10	9	
		お茶の水女子大学		3	70	70	59	注4	
		東京工業大学		2	29	29	26		
		福山大学		2	22	22	9	注5	
		関連講座全体	42	49	48	30			

注1: 前期(前期、1学期、2学期、通年)、後期(後期、3学期)とする。

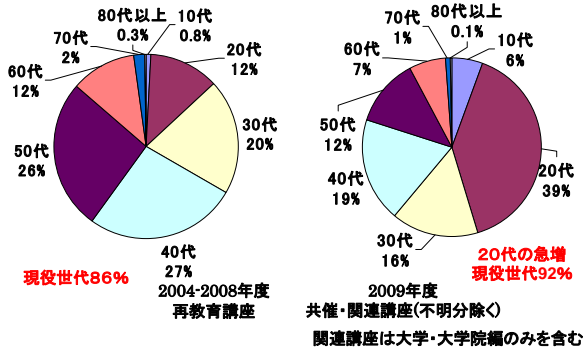
注2: 福山大学の講座は関連講座として位置づけて集計するが、共催講座の修了基準を満たす修了者2名については共催講座の受講者として取扱う。

注3: 産業医科大学の講座は関連講座として位置づけて集計するが、定められた組合せの3ユニットの受講修了者については共催講座の受講修了者として認定する。

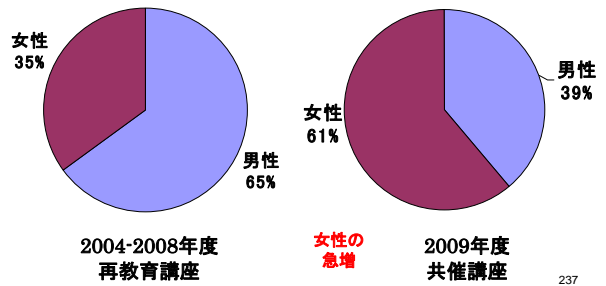
注4: 共催講座のCT302、CT451、CT123、CT442のいずれかを単位取得対象科目として別途履修登録したお茶の水女子大学学生を含む。

注5: 関連講座のFH132-1、FH132-2、FH132-3のいずれか、又はFH132-4、FH132-5、FH132-6のいずれかを単位取得対象科目として別途履修登録した福山大学大学院生

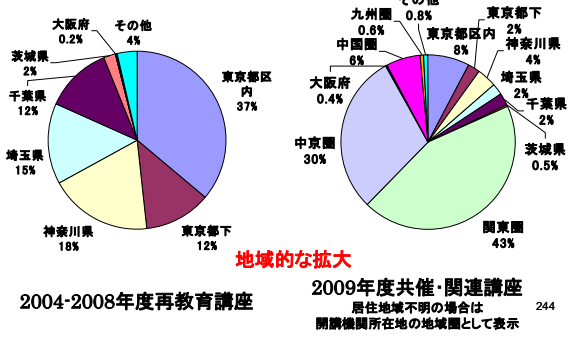
年齢別応募者 —再教育講座と2009年度共催・関連講座(不明分除く)—



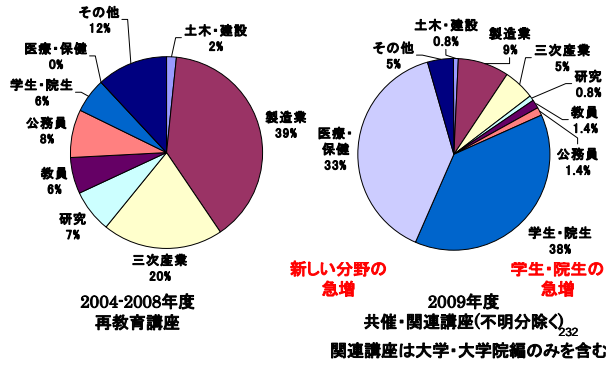
男女別応募者 —再教育講座と2009年度共催講座(不明分除く)—



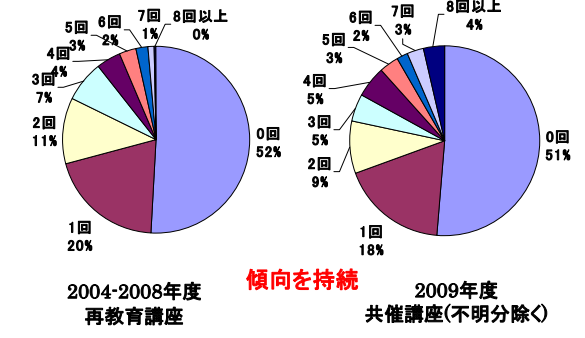
居住区域別応募者 —再教育講座と2009年度共催・関連講座—



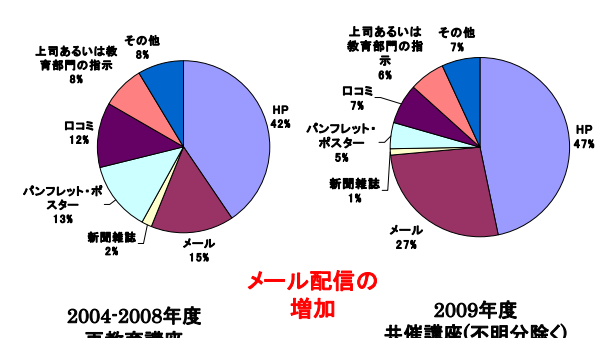
職業別応募者 —再教育講座と2009年度共催・関連講座(不明分除く)—



応募者の講座継続受講 —再教育講座と2009年度共催講座(不明分除く)—



講座を知った情報源 —再教育講座と2009年度共催講座(不明分除く)—



添付表 4 : 2010 年度評価委員会構成員一覧

委員名(敬称略)	所 属 機 関	
大川原 正明	大川原化工機	社長
大久保 明子	住友ベークライト	S-バイオ開発部
太田口 和久	東京工業大学 社会技術革新学会	教授 編集委員長
梶山 千里	日本学生支援機構	理事長(前 九州大学総長)
倉田 毅	富山県衛生研究所	所長(前 国立感染症研究所所長)
小出 重幸	読売新聞社	編集委員
白井 克彦	早稲田大学	総長
高橋 俊彦	JSR	環境安全部
辻 篤子	朝日新聞社	論説委員
中島 幹	綜研化学	会長
西野 仁雄	名古屋市立大学	前 学長
橋都 なほみ	じほう	編集主幹
板東 久美子	文部科学省	文部科学省生涯学習政策局長
日和佐 信子	雪印乳業	社外取締役(元消費者団体連絡会事務局長)
三浦 千明	元 ライオン	
山本 佳世子	日刊工業新聞社	編集委員

2010 年 7 月 6 日現在 合計 16 名

注: 評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。